

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 【公開番号】

特開平 11-322538

(43) 【公開日】 平成 11 年 (1999) 11 月 24 日

(51) 【国際特許分類第 6 版】

A61K 7/00

【F I】

A61K 7/00

U

B

J

7/48

7/48

【審査請求】 未請求

【請求項の数】 2

【出願形態】 O L

【全页数】 4

(21) 【出願番号】 特願平 10-131715

(22) 【出願日】 平成 10 年 (1998) 5 月 14 日

(71) 【出願人】 000001959 株式会社資生堂

【住所又は居所】 東京都中央区銀座 7 丁目 5 番 5 号

(72) 【発明者】 藪 季仁

【住所又は居所】 神奈川県横浜市港北区新羽町 1 0 5 0 番地 株式会社資生堂第一リサーチセンター内

(74) 【代理人】 【弁理士】 長谷川 洋子

(54) 【発明の名称】 パック化粧料

(57) 【要約】

【課題】 たれ落ちがなく、のびの軽さ、安定性に優れた、フェース、ボディ用のパック化粧料を提供する。

【解決手段】 増粘剤と粘土鉱物を含有し、系中の粘度が 2 0 0 0 0 ~ 8 0 0 0 0 m P a ・ s ( 3 0 ° C ) であるパック化粧料。

	実施例 1	実施例 2	実施例 3	実施例 4	実施例 5
(1) 1. 3-ブチレングリコール	7	7	7	7	7
(2) ソルビトール	40	40	40	40	40
(3) カルボキシメチルセルロースナトリウム	1	0.8	1.5	1	1
(4) カオリン	40	40	40	45	87
(5) メタリン酸ナトリウム	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
(6) イオン交換水	残余	残余	残余	残余	残余
粘度 (mPa・s・30°C)	42000	20000	75000	80000	80000
評 価	安定性	○	○	○	○
	たれ落ち	○	○	●	○
	のびの軽さ	○	●	○	●

## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 増粘剤と粘土鉱物を含有し、系中の粘度が  $20000 \sim 80000 \text{ mPa} \cdot \text{s}$  ( $30^\circ\text{C}$ ) であるパック化粧料。

【請求項 2】 粘土鉱物がケイ酸塩鉱物、タルク、マイカの中から選ばれる 1 種または 2 種以上である、請求項 1 記載のパック化粧料。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明はパック化粧料に関する。さらに詳しくは、たれ落ちがなく、のびの軽さ、安定性に優れた、フェース、ボディ用のパック化粧料に関する。

## 【0002】

【従来の技術】 フェース、ボディ用のパック化粧料には、ピールオフタイプ、拭き取りまたは洗い流しタイプ等、種々のものがあるが、貼付タイプのものを除き、いずれの剤型も皮膚に適度な厚さに塗布し、一定時間放置後、剥離したり（ピールオフ）、拭き取り洗い流し（リンスオフ）を行うことによって、皮膚の保湿・賦活、皮膚表面の污垢除去を図っている。このようなパック化粧料は、のびの軽さ、長時間塗布放置してもたれ落ちしない、等の使用感の向上が求められている。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら従来のパック化粧料においては、のびを軽くするとたれ落ちが起りやすくなり、一方、たれ落ちを改善しようとするとのびの軽さが低下してしまい、たれ落ち防止とのびの軽さ向上とを両立することは難しかった。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】 本発明者は、増粘剤と粘土鉱物を配合し、かつ系中の粘度を特定範囲のものとすることにより上記課題を解決し得ることを見出し、本発明を完成するに至った。

【0005】 すなわち本発明は、増粘剤と粘土鉱物を含有し、系中の粘度が  $20000 \sim 80000 \text{ mPa} \cdot \text{s}$  ( $30^\circ\text{C}$ ) であるパック化粧料に関する。

## 【0006】

【発明の実施の形態】 以下、本発明について詳述する。

【0007】 本発明に用いられる増粘剤としては、例えば、ポリビニルアルコール、ポリビニルピロリドン、ポ

リビニルメチルエーテル、カルボキシビニルポリマー、ポリアクリル酸ソーダ、ポリエチレンオキシド、エチレンオキシド・プロピレンオキシドブロック共重合体、セルロース、セルロース誘導体（例えば、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、メチルヒドロキシプロピルセルロース、メチルセルロース、カルボキシメチルセルロース、およびこれらの塩、等）、クインスシード、カラギーナン、ペクチン、マンナン、カードラン、コンドロイチン硫酸、デンプン、ガラクトン、デルマトン硫酸、グリコーゲン、アラビアガム、ヘパラン硫酸、ヒアルロン酸、ヒアルロン酸ナトリウム、トラガントガム、ケラタン硫酸、コンドロイチン、キサンタンガム、ムコイチン硫酸、ヒドロキシエチルグアガム、カルボキシメチルグアガム、グアガム、デキストラン、ケラト硫酸、キサンタンガム、ローカストビーンガム、サクシノグルカン、カロニン酸、キチン、キトサン、カルボキシメチルキチン、寒天等が好ましいものとして挙げられる。中でもセルロース誘導体、キサンタンガム、カラギーナンが特に好ましく用いられる。

【0008】 本発明に用いられる増粘剤は上記具体例に限定されるものでないことはもちろんである。増粘剤は 1 種または 2 種以上を選択して用いることができる。

【0009】 増粘剤の配合量は、塗布時ののびの軽さ、たれ落ちのなさ等の点から、本発明化粧料全量中に 0.7～1.4 重量%であるのが好ましい。

【0010】 本発明に用いられる粘土鉱物としては、ケイ酸塩鉱物、タルク、マイカの中から選ばれる 1 種または 2 種以上が好ましく用いられる。ケイ酸塩鉱物としてはフィロケイ酸塩鉱物（例えばカオリン族、モンモリロナイト族、粘土雲母族、緑泥石族、蛇紋石族）およびテクトケイ酸塩鉱物（例えばゼオライト族）等が挙げられ、具体的にはパイロフィライト、タルク、緑泥石、クリソタイル、アンチゴライト、リザダイト、カオリナイト、デッカイト、ナクライト、ハロサイト、モンモリロナイト、ノントロナイト、サボナイト、ソーコナイト、ベントナイトや、ソーダ沸石、中沸石、スコレス沸石、トムソン沸石等のソーダ沸石族、輝沸石、束沸石、剥沸石等の輝沸石族、および方沸石、重十字沸石、灰十字沸石、菱沸石、グメリン沸石等のゼオライト、ライト等が好ましいものとして挙げられる。本発明では、カオリン、モンモリロナイト、ベントナイト、タルク、マイカ、ケイ酸塩の中から選ばれる 1 種または 2 種以上が特に好ましく用いられる。

【0011】粘土鉱物の配合量は、塗布時ののびの軽さ、たれ落ちのなさ等の点から、本発明化粧料全量中に37～45重量%であるのが好ましい。

【0012】本発明のバック化粧料は、系中の粘度が20000～80000mPa・s(30℃)であり、好ましくは30000～70000mPa・sである。なお、ここでいう「粘度」は30℃におけるB型粘度計(株)トキメック製)での測定値による。

【0013】本発明のバック化粧料は、上記成分のほか、通常のバック化粧料に含まれる皮膜剤、保湿剤、界面活性剤、多価アルコール、低級アルコール、油分、香料、防腐剤、酸化防止剤、キレート剤、薬剤、水等が配合される。また所望により、色剤等の粉末成分をさらに配合してもよい。

【0014】本発明のバック化粧料は、常法により製造することができ、例えば、増粘剤、粘土鉱物に、水、皮膜剤、保湿剤等の他の成分を混合、分散後、加熱溶解し(水相)、ここに、エタノール等のアルコール相を加え、混合、溶解する等の方法により得ることができる。

【0015】なお、本発明のバック化粧料は、乾燥させて剥離するタイプ、ピールオフタイプ、拭き取りまたは洗い流しタイプなど、いずれのタイプのバック化粧料も含む。

#### 【0016】

【実施例】次に、本発明を実施例によりさらに詳細に説明するが、本発明はこれによってなんら限定されるものではない。なお、配合量はすべて重量%である。

【0017】実施例に先立ち、各実施例で用いた試験法、評価法を説明する。

【0018】[粘度] 試料を30℃の恒温槽内で2時間放置し、試料の温度が30℃になったことを確認した上で、高粘度用粘度計(株)トキメック製;B型粘度計)にて測定した。

【0019】[安定性] 試料を50℃の恒温槽内で1ヶ月放置した後、外観で評価した。

(評価)

○: 外観に変化がみられなかった×: 外観に変化(分離)がみられた【0020】[たれ落ち] 試料をパネル(10名)により実使用してもらい、評価した。

(評価)

◎: 9名以上が、たれ落ちしないと回答○: 6～8名が、たれ落ちしないと回答△: 3～5名が、たれ落ちしないと回答×: 2名以下が、たれ落ちしないと回答

【0021】[のびの軽さ] 試料をパネル(10名)により実使用してもらい、評価した。

(評価)

◎: 9名以上が、のびが軽いと回答○: 6～8名が、のびが軽いと回答△: 3～5名が、のびが軽いと回答×: 2名以下が、のびが軽いと回答【0022】(実施例1～5、比較例1～4)下記表1～2中の(1)、(2)に(3)を添加、攪拌して湿潤させたところへ、(5)を溶解した(6)を加え均一になるまで攪拌した。ここへ(4)を添加し、均一になるまで攪拌し、試料(バック化粧料)を得た。

【0023】これら各実施例、比較例の試料を用いて、上記評価基準により粘度、安定性、たれ落ち、のびの軽さを評価した。結果を表1～2に示す。

#### 【0024】

【表1】

	実施例1	実施例2	実施例3	実施例4	実施例5
(1)1, 3-ブチレングリコール	7	7	7	7	7
(2)ソルビトール	40	40	40	40	40
(3)カルボキシメチルセルロースナトリウム	1	0.8	1.8	1	1
(4)カオリン	40	40	40	45	87
(5)メタリン酸ナトリウム	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
(6)イオン交換水	残余	残余	残余	残余	残余
粘度 (mPa・s・30℃)	42000	20000	76000	20000	30000
評 価	安定性	○	○	○	○
	たれ落ち	○	○	◎	◎
	のびの軽さ	○	◎	○	◎

#### 【0025】

【表2】

	比較例1	比較例2	比較例3	比較例4
(1)1, 3-ブチレングリコール	7	7	7	7
(2)ソルビトール	40	40	40	40
(3)カルボキシメチルセルロースナトリウム	0.8	1	1.5	1
(4)カオリン	40	35	40	48
(5)メタリン酸ナトリウム	0.01	0.01	0.01	0.01
(6)イオン交換水	残余	残余	残余	残余
粘度 (mPa・s・30℃)	17000	19000	85000	90000
評 価	安定性	×	×	○
	たれ落ち	×	×	◎
	のびの軽さ	○	×	×

#### 【0026】

【発明の効果】以上詳述したように、本発明によれば、たれ落ちがなく、のびの軽さ、安定性に優れた、フェース、ボディ用のバック化粧料が得られる。

## Bibliographic Fields

## Document Identity

(19) 【発行国】

日本国特許庁 ( J P )

(12) 【公報種別】

公開特許公報 ( A )

(11) 【公開番号】

特開平 1 1 - 3 2 2 5 3 8

(43) 【公開日】

平成 1 1 年 ( 1 9 9 9 ) 1 1 月 2 4 日

## Public Availability

(43) 【公開日】

平成 1 1 年 ( 1 9 9 9 ) 1 1 月 2 4 日

## Technical

(54) 【発明の名称】

パック化粧料

(51) 【国際特許分類第 6 版】

A61K 7/00

7/48

【FI】

A61K 7/00 U

B

J

7/48

【請求項の数】

2

【出願形態】

O L

【全頁数】

4

(19) [Publication Office]

Japan Patent Office (JP)

(12) [Kind of Document]

Unexamined Patent Publication (A)

(11) [Publication Number of Unexamined Application]

Japan Unexamined Patent Publication Hei 11 - 322538

(43) [Publication Date of Unexamined Application]

1999 (1999) November 24 days

(43) [Publication Date of Unexamined Application]

1999 (1999) November 24 days

(54) [Title of Invention]

PACK MAKE-UP

(51) [International Patent Classification, 6th Edition]

A61K 7/00

7/48

[FI]

A61K 7/00 U

B

J

7/48

[Number of Claims]

2

[Form of Application]

OL

[Number of Pages in Document]

4

**Filing****【審査請求】**

未請求

**(21) 【出願番号】**

特願平 10 - 131715

**(22) 【出願日】**

平成 10 年 ( 1998 ) 5 月 14 日

**Parties****Applicants****(71) 【出願人】****【識別番号】**

000001959

**【氏名又は名称】**

株式会社資生堂

**【住所又は居所】**

東京都中央区銀座 7 丁目 5 番 5 号

**Inventors****(72) 【発明者】****【氏名】**

薮 季仁

**【住所又は居所】**神奈川県横浜市港北区新羽町 1050 番地  
株式会社資生堂第一リサーチセンター内**Agents****(74) 【代理人】****【弁理士】****【氏名又は名称】**

長谷川 洋子

**Abstract****(57) 【要約】****【課題】**

[Request for Examination]

Unrequested

(21) [Application Number]

Japan Patent Application Hei 10 - 131715

(22) [Application Date]

1998 (1998) May 14 days

(71) [Applicant]

[Identification Number]

000001959

[Name]

SHISEIDO CO. LTD. (DB 69-053-6453)

[Address]

Tokyo Prefecture Chuo-ku Ginza 7-5-5

(72) [Inventor]

[Name]

Bush seasonal Hitoshi

[Address]

Inside of Kanagawa Prefecture Yokohama City Kohoku-ku  
Nippa-cho 10 50 Shiseido Co., Ltd. First Research Center  
(DB 70-629-0343)

(74) [Attorney(s) Representing All Applicants]

[Patent Attorney]

[Name]

Hasegawa Yoko

(57) [Abstract]

[Problems to be Solved by the Invention]

たれ落ちがなく、のびの軽さ、安定性に優れた、フェース、ボディ用のパック化粧料を提供する。

#### 【解決手段】

増粘剤と粘土鉱物を含有し、系中の粘度が20000~80000mPa・s(30 deg C)であるパック化粧料。

#### Claims

##### 【特許請求の範囲】

##### 【請求項 1】

増粘剤と粘土鉱物を含有し、系中の粘度が20000~80000mPa・s(30 deg C)であるパック化粧料。

##### 【請求項 2】

粘土鉱物がケイ酸塩鉱物、タルク、マイカの中から選ばれる1種または2種以上である、請求項1記載のパック化粧料。

#### Specification

##### 【発明の詳細な説明】

##### 【0001】

##### 【発明の属する技術分野】

本発明はパック化粧料に関する。

さらに詳しくは、たれ落ちがなく、のびの軽さ、安定性に優れた、フェース、ボディ用のパック化粧料に関する。

##### 【0002】

##### 【従来の技術】

フェース、ボディ用のパック化粧料には、ピールオフタイプ、拭き取りまたは洗い流しタイプ等、種々のものがあるが、貼付タイプのものを除き、いずれの剤型も皮膚に適度な厚さに塗布し、一定時間放置後、剥離したり(ピールオフ)、拭き取り洗い流し(リンスオフ)を行うことによって、皮膚の保湿・賦活、皮膚表面の污垢除去を図っている。

このようなパック化粧料は、のびの軽さ、長時間塗布放置してもたれ落ちしない、等の使用感の向上が求められている。

##### 【0003】

There was not dripping falling, extension light, it was superior in stability, pack make-up for face, body is offered.

#### [Means to Solve the Problems]

thickener and clay mineral are contained, pack make-up, where viscosity insystem is 20000 - 80000 mPa\*s (30 deg C)

#### [Claim(s)]

##### [Claim 1]

thickener and clay mineral are contained, pack make-up, where viscosity insystem is 20000 - 80000 mPa\*s (30 deg C)

##### [Claim 2]

It is a one, two or more kinds where clay mineral is chosen from midst of silicate mineral, talc, mica, pack make-up, which is stated in Claim 1

#### [Description of the Invention]

##### [0001]

##### [Technological Field of Invention]

this invention regards pack make-up.

Furthermore details was not dripping falling, extension light, weresuperior in stability, it regards pack make-up for face, body.

##### [0002]

##### [Prior Art]

peel off type, wiping or you wash away to pack make-up for face, body and there are, various ones such as type, but in skin coating fabric it does each agent form in suitable thickness excluding those of sticking type, after constant time leaving, peels off and/or (peel off), does wiping washing away (rinse off) dirt removal of moisture retaining \* activation, skin surface of skin is assured with.

This kind of pack make-up, extension light, lengthy coating fabric leaving, dripping it does not fall, improvement of or other use feel issought.

##### [0003]

## 【発明が解決しようとする課題】

しかしながら従来のバック化粧料においては、のびを軽くするとたれ落ちが起こりやすくなり、一方、たれ落ちを改善しようとするとのびの軽さが低下してしまい、たれ落ち防止とのびの軽さ向上とを両立することは難しかった。

【0004】

## 【課題を解決するための手段】

本発明者は、増粘剤と粘土鉱物を配合し、かつ系中の粘度を特定範囲のものとするにより上記課題を解決し得ることを見出し、本発明を完成するに至った。

【0005】

すなわち本発明は、増粘剤と粘土鉱物を含有し、系中の粘度が  $20000\text{--}80000\text{mPa}\cdot\text{s}$  (30 deg C)であるバック化粧料に関する。

【0006】

## 【発明の実施の形態】

以下、本発明について詳述する。

【0007】

本発明に用いられる増粘剤としては、例えば、ポリビニルアルコール、ポリビニルピロリドン、ポリビニルメチルエーテル、カルボキシビニルポリマー、ポリアクリル酸ソーダ、ポリエチレンオキシド、エチレンオキシド・プロピレンオキシドブロック共重合体、セルロース、セルロース誘導体(例えば、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、メチルヒドロキシプロピルセルロース、メチルセルロース、カルボキシメチルセルロース、およびこれらの塩、等)、クインシード、カラギーナン、ペクチン、マンナン、カードラン、コンドロイチン硫酸、デンプン、ガラクトン、デルマトン硫酸、グリコーゲン、アラビアガム、ヘパラン硫酸、ヒアルロン酸、ヒアルロン酸ナトリウム、トラガントガム、ケラタン硫酸、コンドロイチン、キサンタンガム、ムコイチン硫酸、ヒドロキシエチルグアガム、カルボキシメチルグアガム、グアガム、デキストラン、ケラト硫酸、キサンタンガム、ローカストビーンガム、サクシノグルカン、カロニン酸、キチン、キトサン、カルボキシメチルキチン、寒天等が好ましいものとして挙げられる。

## [Problems to be Solved by the Invention]

But when extension is lightened, regarding conventional pack make-up, dripping falling became easy to happen, when on one hand, it tries probably to improve dripping falling extension light decreased, dripping falling prevention and extension light improvement both achievements it was difficult to do.

【0004】

## [Means to Solve the Problems]

this inventor combines thickener and clay mineral, can solve the above-mentioned problem by at same time designating viscosity in system as those of defined range, you discovered, this invention reached to completion.

【0005】

Namely this invention contains thickener and clay mineral, regards pack make-up where viscosity in system is  $20000\text{--}80000\text{mPa}\cdot\text{s}$  (30 deg C).

【0006】

## [Embodiment of the Invention]

You detail below, concerning this invention.

【0007】

As thickener which is used for this invention, it is listed for example polyvinyl alcohol, polyvinyl pyrrolidone, polyvinyl methyl ether, carboxyvinyl polymer, poly(sodium acrylate), polyethylene oxide, ethylene oxide \* propylene oxide block copolymer, cellulose, cellulose derivatives (for example hydroxyethyl cellulose, hydroxypropyl cellulose, methyl hydroxypropyl cellulose, methylcellulose, carboxymethyl cellulose, and these salt, etc), such as quince seed, carageenan, pectin, mannan, curdlan, chondroitin sulfate, starch, galactan, dermatan sulfate, glycogen, gum arabic, heparan sulfate, hyaluronic acid, sodium hyaluronate, tragacanth gum, keratan sulfate, chondroitin, xanthan gum, mucoitin sulfate, hydroxyethyl guar gum, carboxymethyl guar gum, guar gum, dextran, Gryllotalpa sp. (mole cricket) jp7 sulfuric acid, xanthan gum, locust bean gum, succinoglucan, caronic acid, chitin, chitosan, carboxymethyl chitin, agar is desirable as those whose.

中でもセルロース誘導体、キサンタンガム、カラギーナンが特に好ましく用いられる。

【0008】

本発明に用いられる増粘剤は上記具体例に限定されるものでないことはもちろんである。

増粘剤は 1 種または 2 種以上を選択して用いることができる。

【0009】

増粘剤の配合量は、塗布時ののびの軽さ、たれ落ちのなさ等の点から、本発明化粧料全量中に 0.7~1.4 重量%であるのが好ましい。

【0010】

本発明に用いられる粘土鉱物としては、ケイ酸塩鉱物、タルク、マイカの中から選ばれる 1 種または 2 種以上が好ましく用いられる。

ケイ酸塩鉱物としてはフィロケイ酸塩鉱物(例えばカオリン族、モンモリロナイト族、粘土雲母族、緑泥石族、蛇紋石族)およびテクトケイ酸塩鉱物(例えばゼオライト族)等が挙げられ、具体的にはパイロフィライト、タルク、緑泥石、クリソタイル、アンチゴライト、リザダイト、カオリナイト、デッカイト、ナクライト、ハロサイト、モンモリロナイト、ノントロナイト、サボナイト、ソーコナイト、ベントナイトや、ソーダ沸石、中沸石、スコレス沸石、トムソン沸石等のソーダ沸石族、輝沸石、束沸石、剥沸石等の輝沸石族、および方沸石、重十字沸石、灰十字沸石、菱沸石、グメリン沸石等のゼオライト、ライト等が好ましいものとして挙げられる。

本発明では、カオリン、モンモリロナイト、ベントナイト、タルク、マイカ、ケイ酸塩の中から選ばれる 1 種または 2 種以上が特に好ましく用いられる。

【0011】

粘土鉱物の配合量は、塗布時ののびの軽さ、たれ落ちのなさ等の点から、本発明化粧料全量中に 37~45 重量%であるのが好ましい。

【0012】

本発明のバック化粧料は、系中の粘度が 20000~80000mPa·s(30 deg C)であり、好ましくは 30000~70000mPa·s である。

Especially it can use cellulose derivatives, xanthan gum, carageenan desirably even among them.

【0008】

As for thickener which is used for this invention as for without beingsomething which is limited in above-mentioned embodiment is of course.

Selecting one, two or more kinds, you can use thickener.

【0009】

As for compounded amount of thickener, extension at time of thecoating fabric light, it is a dripping falling, from or other point, itis desirable to be 0.7 - 1.4 weight% in this invention make-up total amount.

【0010】

It can use one, two or more kinds which is chosen from midst of silicate mineral, talc, mica as clay mineral which is used for this invention, desirably.

ferrosilicate mineral (for example kaolin group, montmorillonite (DANA 71.3.1a.2 ) family, clay mica family, chlorite family, serpentine group ) and tectosilicate mineral (for example zeolite family) etc is listed as silicate mineral, is listedconcretely pyrophyllite, talc, chlorite, chrysotile, antigorite, jp9 the die jp7, kaolinite, deckite, nacrite, halloysite (DANA 71.1.1.4 ), montmorillonite (DANA 71.3.1a.2 ), nontronite, saponite (DANA 71.3.1b.2 ), sauconite, bentonite (DANA 71.3.1a.1-2 ) and,such as zeolite, スコ less zeolite, thomsonite or other natrolite family, heulandite, stilbite, 剥 zeolite or other heulandite family, and analcime, heavy cross zeolite, ash cross zeolite, chabazite, グメ phosphorus zeolite or other zeolite, write in natrolite, are desirable as those whose.

With this invention, kaolin, montmorillonite (DANA 71.3.1a.2 ), bentonite (DANA 71.3.1a.1-2 ), especially it can use the one, two or more kinds which is chosen from midst of talc, mica, silicate desirably.

【0011】

As for compounded amount of clay mineral, extension at time of thecoating fabric light, it is a dripping falling, from or other point, itis desirable to be 37 - 45 weight% in this invention make-up total amount.

【0012】

As for pack make-up of this invention, viscosity in system with 20000 - 80000 mPa\*s (30 deg C ), is preferably 30000~70000 mPa\*s.



なお、ここでいう「粘度」は 30 deg C における B 型粘度計((株)トキメック製)での測定値による。

【0013】

本発明のバック化粧料は、上記成分のほかに、通常のバック化粧料に含まれる皮膜剤、保湿剤、界面活性剤、多価アルコール、低級アルコール、油分、香料、防腐剤、酸化防止剤、キレート剤、薬剤、水等が配合される。

また所望により、色剤等の粉末成分をさらに配合してもよい。

【0014】

本発明のバック化粧料は、常法により製造することができ、例えば、増粘剤、粘土鉱物に、水、皮膜剤、保湿剤等の他の成分を混合、分散後、加熱溶解し(水相)、ここに、エタノール等のアルコール相を加え、混合、溶解する方法により得ることができる。

【0015】

なお、本発明のバック化粧料は、乾燥させて剥離するタイプ、ピールオフタイプ、拭き取りまたは洗い流しタイプなど、いずれのタイプのバック化粧料も含む。

【0016】

【実施例】

次に、本発明を実施例によりさらに詳細に説明するが、本発明はこれによってなんら限定されるものではない。

なお、配合量はすべて重量%である。

【0017】

実施例に先立ち、各実施例で用いた試験法、評価法を説明する。

【0018】

[粘度]試料を 30 deg C の恒温槽内で 2 時間放置し、試料の温度が 30 deg C になったことを確認した上で、高粘度用粘度計((株)トキメック製;B 型粘度計)にて測定した。

【0019】

Furthermore, as for "viscosity " referred to here with measured value with the B type viscometer (Ltd. Tokimec Inc. (DB 69-053-7014 ) make) in 30 deg C.

[0013]

As for pack make-up of this invention, to other than above-mentioned component, film agent, humectant, boundary surfactant, polyhydric alcohol, lower alcohol, oil component, fragrance, antiseptic, antioxidant, chelator, drug, water etc which is included in the conventional pack make-up is combined.

In addition furthermore it is possible to combine colorant or other powder component with desire.

[0014]

Produces pack make-up of this invention, with conventional method to be possible, it mixes water and film agent, humectant or other other component to for example thickener, clay mineral, after dispersing, thermal decomposition does and (aqueous phase ), here, it can acquire with the or other method which it mixes and melts including ethanol or other alcohol phase.

[0015]

Furthermore, drying, type, peel off type, wiping which peels off or you wash away the pack make-up of this invention, and, pack make-up of each type such as type includes.

[0016]

[Working Example(s)]

Next, this invention furthermore is explained in detail with Working Example , but this invention is not something which is limited with this.

Furthermore, compounded amount is weight% entirely.

[0017]

It precedes Working Example, it explains test method, evaluation method which is used with each Working Example.

[0018]

After [viscosity ] specimen 2 hours was left inside constant temperature tank of 30 deg C, the temperature of specimen became 30 deg C and verifying , it measured with high viscosity viscometer (Ltd. Tokimec Inc. (DB 69-053-7014 ) make; B type viscometer ).

[0019]

[安定性]試料を 50 deg C の恒温槽内で 1 ヶ月  
放置した後、外観で評価した。

[stability] specimen inside constant temperature tank of 50  
deg C 1 month after leaving, the evaluation was done with  
external appearance.

(評価)

(evaluation)

○ :	外観に変化がみられなかった
0 :	In external appearance change is seen
×	外観に変化 ( 分離 ) がみられた
X	In external appearance change (Separation) is seen

【0020】

[0020]

[たれ落ち]試料をパネル(10 名)により実使用  
してもらい、評価した。

practical use it had doing [dripping falling] specimen with  
panel (10 persons ), evaluation did.

(評価)

(evaluation)

(計4個)

◎ :	9 名以上が	たれ落ちしないと回答	
_____	_____	_____	
*:	9 persons or more	That dripping it does not fall, reply	
○ :	6 ~ 8 名が	たれ落ちしないと回答	
_____	_____	_____	
0:	6 - 8 persons	That dripping it does not fall, reply	
△ :	3 ~ 5 名が	たれ落ちしないと回答	
_____	_____	_____	
*:	3 - 5 persons	That dripping it does not fall, reply	
×	2 名以下が	たれ落ちし	しないと回答
_____	_____	_____	_____
X	2 persons or fewer	dripping falling to do	That it does not do, reply

【0021】

[0021]

[のびの軽さ]試料をパネル(10 名)により実使用  
してもらい、評価した。

practical use it had doing [Extension light] specimen with  
panel (10 persons ), evaluation did.

(評価)

(evaluation)

◎ :	9 名以上が	のびが軽いと回答
* :	9 persons or more	That extension is light, reply
○ :	6 ~ 8 名が	のびが軽いと回答

	6 - 8 persons	That extension is light, reply
:	3 ~ 5 名が	のびが軽いと回答
*:	3 - 5 persons	That extension is light, reply
x	2 名以下が	のびが軽いと回答
X	2 persons or fewer	That extension is light, reply

【0022】

(実施例 1~5、比較例 1~4)下記表 1~2 中の(1)、(2)に(3)を添加、攪拌して湿潤させたところへ、(5)を溶解した(6)を加え均一になるまで攪拌した。

ここへ(4)を添加し、均一になるまで攪拌し、試料(パック化粧料)を得た。

【0023】

これら各実施例、比較例の試料を用いて、上記評価基準により粘度、安定性、たれ落ち、のびの軽さを評価した。

結果を表 1~2 に示す。

【0024】

【表 1】

【0022】

(1) To (2) in (Working Example 1~5、 Comparative Example 1~4 ) below-mentioned Table 1~2 adding and agitating the(3) until it becomes uniform, to place where wetting it does,including (6) which melts (5) it agitated.

Until it adds (4) to here, becomes uniform it agitated, acquired specimen (pack make-up ).

【0023】

Making use of specimen of these each Working Example、 Comparative Example, with above-mentioned evaluation standard viscosity、 stability、 dripping falling and extension light evaluation it did.

Result is shown in Table 1~2.

【0024】

【Table 1】

	実施例 1	実施例 2	実施例 3	実施例 4	実施例 5
(1) 1, 3-ブチレングリコール	7	7	7	7	7
(2) ソルビトール	40	40	40	40	40
(3) カルボキシメチルセルロースナトリウム	1	0.8	1.8	1	1
(4) カオリン	40	40	40	45	37
(5) メタリン酸ナトリウム	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
(6) イオン交換水	残余	残余	残余	残余	残余
粘度 (mPa・s・30℃)	42000	20000	75000	80000	30000
評 価	安定性	○	○	○	○
	たれ落ち	○	○	◎	◎
	のびの軽さ	○	◎	○	◎

【0025】

[0025]

	比較例 1	比較例 2	比較例 3	比較例 4
(1) 1, 3-ブチレングリコール	7	7	7	7
(2) ソルビトール	40	40	40	40
(3) カルボキシメチルセルロースナトリウム	0.6	1	1.5	1
(4) カオリン	40	35	40	48
(5) メタリン酸ナトリウム	0.01	0.01	0.01	0.01
(6) イオン交換水	残余	残余	残余	残余
粘度 (mPa・s・30℃)	17000	19000	85000	90000
評 価	安定性	×	×	○
	たれ落ち	×	×	◎
	のびの軽さ	○	×	×

【表 2】

[Table 2]

【0026】

[0026]

## 【発明の効果】

## [Effects of the Invention]

以上詳述したように、本発明によれば、たれ落ちがなく、のびの軽さ、安定性に優れた、フェース、ボディ用のパック化粧料が得られます。

As above detailed, according to this invention, there was not dripping falling, extension light, it was superior in stability, you can obtain pack make-up for face, body.